

今月はICO7月マーケットレポートに加え、トピックス（1）本年度『国際コーヒーの日』に関するICO事務局長メッセージ、（2）NCAホームページから本年度全米コーヒー需要動向調査に基づく米国若者の需要動向に関するコメント及び（3）FNCホームページからコロンビア6月コーヒー生産量に関する記事をお送りします。



コーヒー価格上昇は止まったが、ロブスタコーヒーへの供給懸念は続く

7月、ICO複合指標価格は最近17ヶ月の最高値を付けたが、月初の高値からは下落した。ブラジルのニュークロップの輸出が始まらないことから、最近2～3ヶ月間のコーヒー総輸出量は減少したが、消費国の在庫量は高水準を維持している。更に、ブラジル食糧供給公社（CONAB）が同国の2016年3月末の国内在庫量について、昨年同期の14.4百万袋に比べ5.4%程度少ない13.6百万袋だったと発表した。

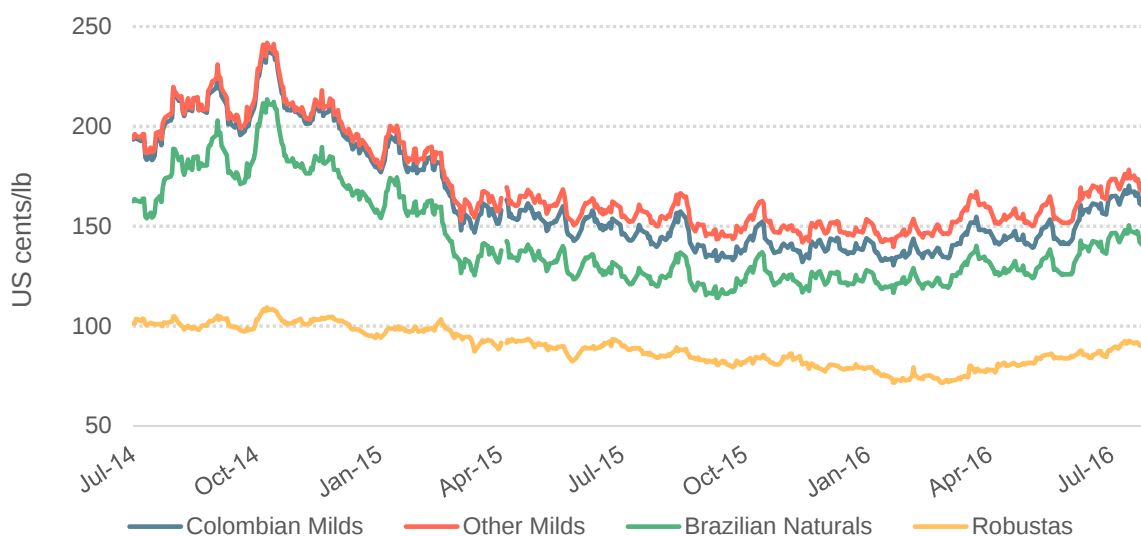
グラフ 1: ICO 日次複合指標価格



© 2016 International Coffee Organization (www.ico.org)

7月のコーヒー価格はミックス相場となったが、月末はICO日次複合指標価格は、月初に比べ僅か0.5セントの上昇に留まった。コーヒー価格は、ブラジルの今年2回目の降霜騒ぎや通貨レアルの回復（米ドルに対する）の為、月初から上昇し月中には137.36米セント/LBを付けた。この価格は日次価格としては2015年2月以来の最高値であった。しかしその後、コロンビアトラック業者のストライキが終了したことやブラジルの降霜懸念がなくなったことで、価格は129.40セントまで下落した。

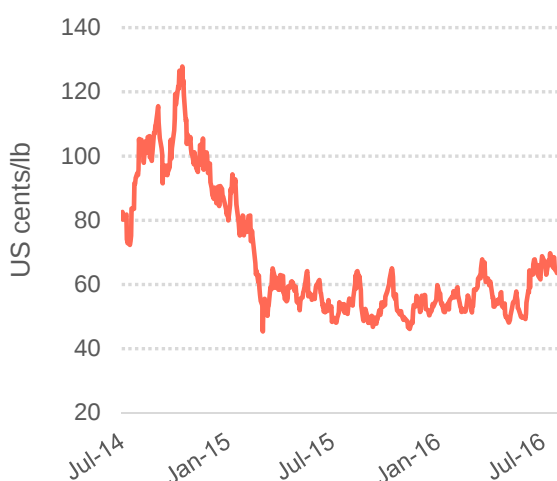
グラフ 2: ICO 日次グループ指標価格



© 2016 International Coffee Organization (www.ico.org)

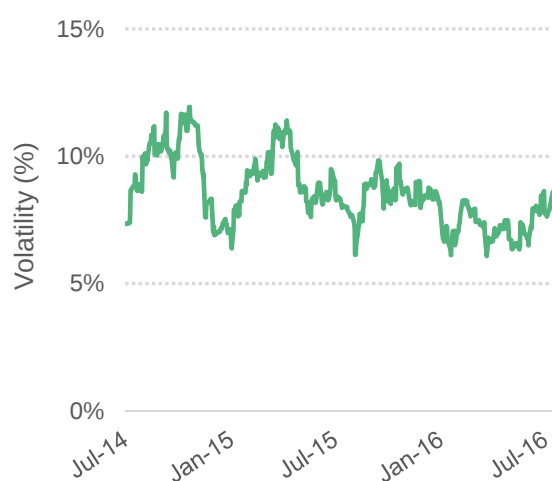
全4コーヒーグループ指標価格の月間平均値が上昇した。ロブスタグループ指標価格の上昇幅は5.7%と最も大きく90.82米セントとなり、2015年4月以来の最高値となった。アラビカグループも大幅に上昇し、コロンビアマイルド、アザーマイルド、ブラジルナチュラルは夫々、4.8%、3.8%、4.6%上がった。しかし、夫々のグループの供給見通しとは関係なくアラビカとロブスタのアービトラージは2ヶ月連続して拡大した。

グラフ 3: ニューヨークとロンドン先物市場のアービトラージ



© 2016 International Coffee Organization (www.ico.org)

グラフ 4: ICO 複合指標価格の30日移動平均価格変動率



© 2016 International Coffee Organization (www.ico.org)

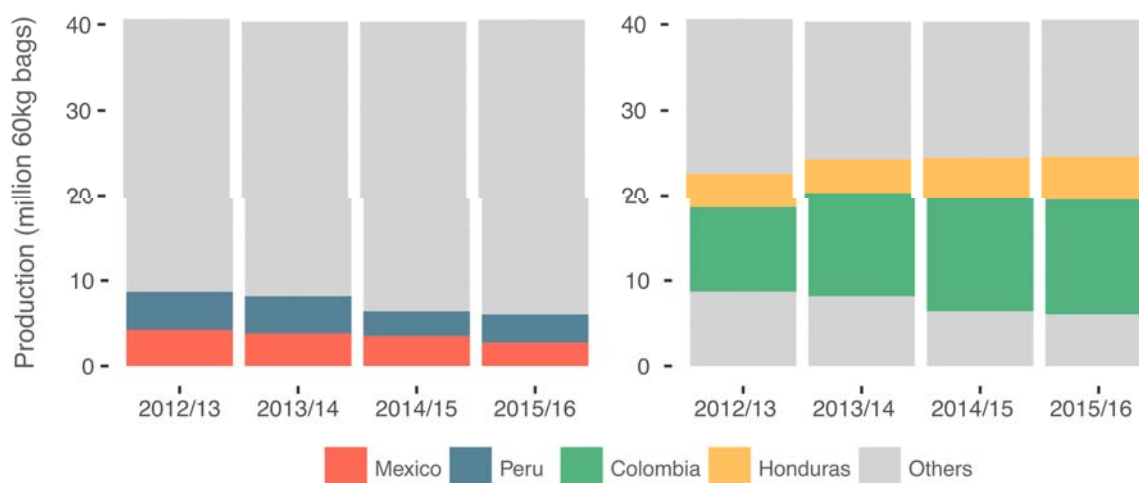
2016年6月のコーヒー総輸出量は9百万袋となり前年同月に比べ11.2%と大幅に減少し、過去6年間で最も少ない輸出量となった。コーヒー4大生産国の内3か国の輸出量が減少したが{ブラジル(-10.2%)、コロンビア(-7.4%)、インドネシア(-62.9%)}、ベトナム(+0.4%)の輸出量は若干増えた。しかし、2015/16年度の最初の3四半期(10月~6月)の輸出量は前年同期比0.2%多い85.1百万袋の見通しで、ロブスタの輸出量は6.5%減少し、アラビカの輸出量は4.6%増加した。

ICOの2015/16年度生産量見通しを前回の144.7百万袋から、143.3百万袋に下方修正する。この修正は主にメキシコが3.9百万袋から2.8百万袋に大幅に下方修正したこと及びニカラグアの1.8百万袋への減産予想を反映したものである。特にメキシコの場合は、コーヒーさび病被害が当初予想以上に深刻で2012/13年度生産量の3分の1以上の減産幅となっている。

結果として、2015/16年度総生産量は前年度比0.7%の増産となるが、2012/13年度及び2013/14年度総生産量に比べるとまだ少ない数量である。ただ、アラビカコーヒーの総生産量はほぼ横ばいであり、ブラフ5で解るようにスペシャルティコーヒー分野で使用される水洗式アラビカコーヒーの供給量は過去4年間ほぼ変わっていない。尤もいくつかのオリジン（例えばメキシコとペルー）では生産量が減っているが、その減産部分が他のオリジン（例えばコロンビアとホンジュラス）の増産で相殺される形になっている。

Graph 5: Production of Washed Arabicas

Despite lower production in Mexico and Peru, increased output in Colombia and Honduras has kept total production of Washed Arabicas (i.e. Colombian Milds & Other Milds) at just over 40 million bags for the last four years



© International Coffee Organization 2016

一方、ロブスタコーヒーの供給量は安定していない。即ち、2015/16年度はベトナムとインドネシアの生産量改善の為、1.7%増加するが、2016/17年度の見通しは厳しい。即ち、インドネシアの直近3か月の輸出量は、強力なエルニーニョ現象の影響及び国内消費が増えた為、3分の1以上減少し1百万袋を下回っており、ベトナムについてもベトナムコーヒー・ココア協会（VICOFA）は来年度の生産量は干ばつの影響で少なくなるだろうと警告している。また、ブラジルのロブスタコーヒーについては、CONABは干ばつの影響で過去10年間で最低数量になるだろうと予想しており、6月の輸出量は前年対比79.5%減少し僅か83,000袋となっている。

表 1: ICO 指標価格及び先物価格 (US cents/lb)

	ICO Composite	Colombian Milds	Other Milds	Brazilian Naturals	Robustas	New York*	London*
Monthly averages							
Jul-15	119.77	144.52	154.45	123.64	87.12	128.59	77.16
Aug-15	121.21	146.96	156.92	127.24	85.78	132.42	76.25
Sep-15	113.14	135.55	146.15	117.83	81.50	121.66	71.53
Oct-15	118.43	143.10	153.25	127.47	82.78	129.45	72.89
Nov-15	115.03	138.63	147.98	122.95	81.74	122.35	72.04
Dec-15	114.63	139.89	148.66	123.73	79.28	123.77	70.02
Jan-16	110.89	135.21	145.03	121.21	74.71	120.20	65.67
Feb-16	111.75	137.17	147.70	122.24	74.04	119.25	64.96
Mar-16	117.83	145.20	157.50	130.38	75.60	127.33	66.17
Apr-16	117.93	143.66	154.22	128.10	80.18	125.34	70.90
May-16	119.91	144.49	155.19	129.05	83.93	126.80	75.11
Jun-16	127.05	156.86	165.45	138.38	85.94	139.10	76.87
Jul-16	132.98	164.46	171.76	144.76	90.82	148.16	82.09
% change between Jul-16 and Jun-16							
	4.7%	4.8%	3.8%	4.6%	5.7%	6.5%	6.8%
価格変動率 (%)							
Jun-16	8%	9%	9%	10%	6%	11%	6%
Jul-16	6%	7%	7%	7%	5%	9%	5%
%変化率 (Jul-16 ~ Jun-16)							
	-1.6%	-2.0%	-1.8%	-2.4%	-0.9%	-2.5%	-1.3%

* 第2限月と第3限月の平均値

表 2: 価格差 (ディフェレンシャルズ) (US cents/lb)

	Colombian Milds Other Milds	Colombian Milds Brazilian Naturals	Colombian Milds Robustas	Other Milds Brazilian Naturals	Other Milds Robustas	Brazilian Naturals Robustas	New York* London*
Jul-15	-9.93	20.88	57.40	30.81	67.33	36.52	51.43
Aug-15	-9.96	19.72	61.18	29.68	71.14	41.46	56.17
Sep-15	-10.60	17.72	54.05	28.32	64.65	36.33	50.13
Oct-15	-10.15	15.63	60.32	25.78	70.47	44.69	56.56
Nov-15	-9.35	15.68	56.89	25.03	66.24	41.21	50.31
Dec-15	-8.77	16.16	60.61	24.93	69.38	44.45	53.75
Jan-16	-9.82	14.00	60.50	23.82	70.32	46.50	54.53
Feb-16	-10.53	14.93	63.13	25.46	73.66	48.20	54.29
Mar-16	-12.30	14.82	69.60	27.12	81.90	54.78	61.16
Apr-16	-10.56	15.56	63.48	26.12	74.04	47.92	54.44
May-16	-10.70	15.44	60.56	26.14	71.26	45.12	51.69
Jun-16	-8.59	18.48	70.92	27.07	79.51	52.44	62.23
Jul-16	-7.30	19.70	73.64	27.00	80.94	53.94	66.07
% 変化率 (Jul-16 ~ Jun-16)							
	-15.0%	6.6%	3.8%	-0.3%	1.8%	2.9%	6.2%

* 第2及び第3限月の平均値

表 3: 輸出国の総生産量

Crop year commencing	2012	2013	2014	2015	% change 2014-15
TOTAL	144 960	146 506	142 278	143 306	0.7%
Arabicas	88 420	88 400	82 889	82 890	0.0%
Colombian Milds	11 523	13 488	14 571	14 845	1.9%
Other Milds	29 143	26 838	25 768	25 755	0.0%
Brazilian Naturals	47 753	48 074	42 551	42 289	-0.6%
Robustas	56 540	58 106	59 389	60 416	1.7%
Africa	16 668	16 214	16 055	17 449	8.7%
Asia & Oceania	42 552	46 453	45 666	47 805	4.7%
Mexico & Central America	18 609	16 596	17 269	16 753	-3.0%
South America	67 131	67 243	63 287	61 298	-3.1%

単位：千袋

Full production data are available on the ICO website at www.ico.org/trade_statistics.asp

表 4: 輸出国の総輸出量

	June 2015	June 2016	% change	October - June 2014/15	October - June 2015/16	% change
TOTAL	10 172	9 033	-11.2%	84 889	85 101	0.2%
Arabicas	6 154	5 728	-6.9%	51 848	54 208	4.6%
Colombian Milds	1 112	1 034	-7.0%	9 886	10 579	7.0%
Other Milds	2 501	2 170	-13.2%	16 733	17 147	2.5%
Brazilian Naturals	2 541	2 524	-0.7%	25 230	26 481	5.0%
Robustas	4 018	3 305	-17.7%	33 041	30 893	-6.5%

単位：千袋

Full trade statistics are available on the ICO website at www.ico.org/trade_statistics.asp

表 5: ニューヨーク及びロンドン先物市場の認証在庫量

	Jul-15	Aug-15	Sep-15	Oct-15	Nov-15	Dec-15	Jan-16	Feb-16	Mar-16	Apr-16	May-16	Jun-16	Jul-16
New York	2.38	2.36	2.28	2.15	2.08	1.95	1.82	1.76	1.62	1.58	1.53	1.48	1.45
London	3.35	3.43	3.43	3.37	3.35	3.31	3.23	3.04	2.92	2.78	2.64	2.53	2.45

単位：百万袋

表 6: 世界のコーヒー消費量

Calendar years	2012	2013	2014	2015	CAGR (2012-2015)
TOTAL	143 396	148 185	150 231	152 111	2.0%
Exporting countries	44 711	45 522	46 649	47 633	2.1%
Importing countries	98 685	102 663	103 582	104 478	1.9%
Africa	9 839	10 690	10 455	10 621	2.6%
Asia & Oceania	28 386	30 022	31 099	33 034	5.2%
Central America & Mexico	5 151	5 156	5 218	5 245	0.6%
Europe	49 459	50 499	50 960	50 116	0.4%
North America	25 730	26 931	27 679	27 975	2.8%
South America	24 831	24 888	24 819	25 120	0.4%

CAGR: Compound Annual Growth Rate

単位：千袋

ートピックス（１）ー

『国際コーヒーの日』行事に関連し、次のようなメール（7月27日付）がICOから届きました。ICOが昨年、『国際コーヒーの日』を10月1日と決め、第1回国際コーヒーの日イベントをミラノで開催したことは皆様ご承知の通りですが、今年度は、この活動を更に多くの国で広めるべく各国のコーヒー関係者に積極的にイベントを催すよう呼び掛ける内容になっています。当方からは全日本コーヒー協会行事として『フォトコンテスト2016』をICOに報告済みですが、ご自身でイベントを催しICOホームページを通じ世界で共有したいという方は、直接ICO宛てにイベント内容を報告してください。また、全日本コーヒー協会会員の方で、ご自身のイベント用にICO公式ロゴ等を使用したい方はICOホームページからダウンロードしてお使いください。

今年の10月1日『国際コーヒーの日』をどのように祝われますか？

親愛なるICO加盟メンバー及びオブザーバーの皆様

2016年10月1日に行われる第二回『国際コーヒーの日』に関してご連絡を差し上げます。昨年、国際コーヒー機関（ICO）は、『国際コーヒーの日（ICD）』を初めて、公式に祝い、35か国から70のイベントの報告を受け、それらをICOの公式キャンペーンウェブサイトに掲載させていただきました。

2016年の我々の目標は、この勢いに乗り各国のコーヒー協会やその会員の方々が一人でも多く、我々がこよなく愛するコーヒーを育ててくれているコーヒー生産者に感謝の意を表わすために、10月1日に販売促進キャンペーンやコミュニティ行事を催して頂くことです。世界のコーヒー愛飲家の間でこの活動を広めるためには、ICOの民間部門諮問委員会の委員として貴殿に積極的にこの行事に参加して頂くことが重要だと思います。

2016年『国際コーヒーの日』の公式ロゴはICOホームページからダウンロードして頂けるようになっていきますので、我々のパートナーである皆さんにキャンペーン用に自由にお使い頂ければ幸いです。数週間以内には、全世界で催される『国際コーヒーの日』イベントの配信を開始する予定で、公式ビデオもご紹介できると思います。

我々は、今ICOの『国際コーヒーの日』ウェブサイトにてイベント内容の報告を受け付けています。あなたのお友達や業界仲間の方々にこの活動への参加を促すためにこのリンクを共有したいと考えています。あなたの国、会社、協会は今年度の『国際コーヒーの日』に何かキャンペーンを企画されていますか。もしそうであれば、あなたの企画を教えてください。我々に何か協力できることがあればいいと思っています。あなたからのご連絡をお待ちしています。

敬具

国際コーヒー機関、事務局長：ロベリオ・オリベイラ・シルバ

販売促進・市場開拓委員会、委員長：ベラ・エスピンドラ・ラファエル（メキシコ）

民間部門諮問委員会、副委員長：ラマス・チャンツーリャ（ロシア）

ートピックス（２）ー

全米コーヒー協会（NCA）は今年度の全国コーヒー需要動向調査報告書（NCDT）を発表しましたが、報告書では最近の米国若者世代（Millennials）のコーヒー飲用動向についてかなり詳しく分析されているとのこと。これに関する NCA ホームページ記事の抜粋をお届けしますが、ご興味のある方は同報告書を直接購入され読まれることをお勧めします。

アメリカ人のコーヒー嗜好傾向はかつてないほど複雑になってきている。

NCA は過去 67 年に亘り、全米コーヒー需要動向調査（NCTD）を実施してきたが、2016 年度の調査報告書から若者によりコーヒーの世界が変化していることが伺える。

最新のコーヒー抽出技術から、コーヒー生豆の買い付け方まで新世代のコーヒー消費者は親世代のやり方には満足していないようである。

- ・2016 年度の NCDT 報告書によるとエスプレッソコーヒーをベースとするコーヒーの 1 日当たりの消費杯数は 2008 年に比べほぼ 3 倍になっている。
- ・2008 年から 2016 年の間にグルメコーヒーの 1 日当たりの消費杯数は、18～24 歳の年代で 13%から 36%に、25～39 歳の年代で 19%から 41%に増加した。
- ・エスプレッソをベースとするコーヒーだけに限ると、18～24 歳では 9 %から 22 %に、25～39 歳では 8%から 29%に増えている。

このグルメコーヒーへのシフトを背景に、調査では初めて毎日コーヒーを飲む人のドリップ抽出器を利用する割合が 50%まで低下した。世代交代が進んでいるようで、若者のエスプレッソやグルメコーヒーの消費が大幅に増えてはいるものの、全体の消費量は 2 %（誤差の減少幅と見るには少し大きい）減少した。

実際、グルメコーヒー（グルメコーヒー生豆を使用した）のマーケットシェアは 2016 年も特に若者の間で増えている。グルメコーヒーには伝統的グルメコーヒー、エスプレッソをベースとするコーヒー、アイスコーヒー、フローズンコーヒー等を含む『スペシャルティコーヒー』を含んでいる。

25～39 歳の高年齢若者層は、最新需要動向調査によるとエスプレッソベースのコーヒー、カプチーノ、モカ、エスプレッソ、グルメコーヒー、カフェ・アメリカーノ、ストレートコーヒー（flat coffee）, 水出しコーヒー（cold brew）, 窒素注入コーヒー（nitrogen infused）等のコーヒーを最も多く飲む世代である。

品質ではない品質

プレミアムコーヒーとは、プレミアムを支払わなければならないコーヒーのことだが、

消費者はプレミアムを支払う意思があるようである。

2016 年調査によると全米における総コーヒー消費杯数は僅かに減少したが、小売金額は前年に続き増えたようである。『Packaged Facts』社情報によると、コーヒーのフードサービス市場だけを見ると過去 4 年間で 14.2%増加したとのことである。

歴史的にみると、経済学者が小売りの売り上げが急落するに違いないと予想した2008 年の不況時以降でさえコーヒー販売は増加している。コーヒーは常に重要な地位を占めてきたが（南北戦争当時、兵士はチコリを抽出してコーヒーとして飲んだ程である）、経済の低迷にも関わらずコーヒーの売り上げが伸びていることから判断すると現在の若者にとってもコーヒーは本当に大切な存在であることが伺える。

多くの市場関係者が実感しているように、購買力増加が著しい若者達は（約 2000 億ドル程度と言われているが）、慎重な買い手であり、自分が物を買うときには、納得した上で買いたいと考えている。彼らは、生活に価値を与えてくれる組織・製品・サービスについて彼ら自身の価値を実現してくれる会社を支援することを好むようだ。

2015 年の『Nielsen』調査によると、調査対象の消費者の 66%が、社会的側面や環境側面において前向きに取り組んでいる企業の製品やサービスを多く買うと答えている（前年度調査では約半分の人がそう答えたに過ぎなかった）。

例えば、2015 年 1 2 月の『Transparent Trade Coffee』調査によると、生産者の名前入りのスペシャルティレギュラーコーヒーの平均小売り価格は、何も記されていないレギュラーコーヒーに比べ 9.95 米ドル/LB 価格が高かったとのことである。

2016 年の需要動向調査では 28%もの対象者が、自分の飲んでいるいるコーヒーが持続可能な方法で生産されているかどうか知らないと答えている。これは、コーヒー産業がこの分野の情報を積極的に伝える余地があることを示唆している。

価値の価値

2016 年度コーヒー需要動向調査によるとコーヒー消費を促す要因は基本的に変化しているようである。即ち次世代のコーヒー消費者層は彼らが支援する製品やブランドに対し、より個人的な関係を求めている。即ち彼らが求める製品には広い意味で彼らの世界観が反映されたものを求めているのである。

『価値』とは常に、重量当たりの価格や、固定的な条件のことをいうのではない。価値は今日では、顧客の年代層により多くのものを意味している。即ちある消費者にとっては、

お金や五感で測られるもの以上にブランド哲学やブランドの真正性、約束事の方がより大切な『価値』なのである。

独立宣伝会社『Barkley』によると 50%以上の若者は彼らがいいと思う動機を支援している会社の商品を買うよう努力しているとのことである。

このように拡散し、多様化する価値の定義が、全く新しいコーヒー飲用習慣をもたらす第3ウェーブや、今では第4ウェーブと言われるような新たな消費の波を生みだし、コーヒー産業にとってはビジネスチャンスになっている。

更に洗練された消費者

若者世代はまた、洗練された消費者でもある。2〜3年前までは、コーヒーについて学ぶのは今よりずっと難しかった。しかし、今では全ての情報はクリック（もしくはタップ）するだけで簡単に入手できるようになった。彼らは入手した情報に基づき、寸分違わずコーヒーを淹れることが出来るようになった。

結果として、彼らは更にコーヒー市場の技術革新に開放的になった。若いコーヒー消費者は一般的に新しい飲み方や淹れ方を試すことに積極的である。このことは 2016 年コーヒー需要動向調査に 3つの新しいタイプのコーヒーが追加されたことにも反映されている。即ち、ストレートホワイトコーヒー (flat white) , 水出しコーヒー (cold brew) , 及び窒素注入コーヒー (nitrogen-infused) である。

消費傾向とビジネスチャンス

それでは、変化するコーヒー市場に於いてコーヒー産業は新しいタイプの消費者にどのように対処すればよいのだろうか。

技術

まず『アプリ (app)』である。もし持っていないなら用意すべきである。次世代の消費者に近づくにはスマートフォンが最良である。彼らの興味を引く（持続させる）には、彼らが興味を持ち、かつ分かりやすい内容のサービス、製品、情報を提供する必要がある。

Packaged Facts 社の調査担当重役の David Spinkle 氏は全米コーヒー協会のフードサービスセミナーで『アプリは人々のコーヒーの買い方を変化させている』と言っていた。しかし、直接的で強引な売り込みは避けるようにとも言っている。即ち『自分の商品の直接的な売り込みは避け、顧客が興味を持ちそうな情報やサービスを提供するように』と言っている。アプリはまた電子取引 (e-commerce) の可能性を広げる。全米で 70%近い成人が少なくとも毎月オンラインショッピングをしている。更に 33%は毎週ネットで買い物をしているとのことである。ただ、準備不足の状態です突然電子空間に飛び出すことを戒め

てもいる。なぜなら、若者層はとりあえずことを始めるにあたり技術を求めるが、内容に満足しないとすぐ不満を唱えだすとのことである。

予約購入サービス (Subscription services)

組み立て (makeup) から製造 (produce) までの全てにおいて予約購入サービスは益々一般的になってきている。この方式はコーヒーの消費者に自分にあった独自の飲用習慣を提供するのみならず、新しい方法を知る機会を提供している。

調査会社 Mintel 社によると、21%のコーヒー愛飲家が自宅もしくは職場への RTD (readymade coffee) の宅配を希望し、16%の愛飲家が自宅に新鮮なレギュラーコーヒーの宅配を希望しているとのことである。

宅配サービスにより企業と個人のより親密な関係を構築する可能性が開けた。予約購入サービスで、時間をかけて両者の関係と信頼を構築することにより、顧客にコーヒー産業が抱える重要な問題を知らせ、教育する場になりうるからである。

抽出器具 (Brewing gadgets)

若いコーヒー消費者は新しい技術に触れる機会も多く、変化に対し開放的である。彼らは新しいアイデアや革新技术に興味を惹かれ易い傾向がある。このことは開催機会が増えている展示会や市場でヒットする新製品に於いて見られる。

消費者は益々自分の飲むコーヒーに金を使う傾向がある。美食家が主導するネットの批評文化 (review-culture) は、消費者が自分の好きなコーヒーを淹れるために『最高』の器具を使いたいという気持ちを増幅させる。

多くの新しいコーヒー関連器具が、『Kickstarter』のようなクラウドファンディング・サイト (crowdfunding site) で紹介され大いに成功しているようである。

以上

ー トピックス (3) ー

コロンビアコーヒー生産者連合 (FNC) のホームページから 6 月の生産量が昨年同月に比べ減少したという記事がありましたので全訳をお届けします。

コロンビアコーヒーの 6 月生産量は 7 % 減少した

ボゴタ 2016 年 7 月 6 日 (FNC 広報) : エルニーニョ現象の悪影響の結果、2016 年 6 月のコロンビアコーヒーの生産量は 7 % 減少した。同月のコロンビア生産量は 1158 千袋 (60 k g) となったが、2015 年 6 月の生産量、1240 千袋に比べると大幅な減産となった。

コロンビアコーヒー生産者連合 (FNC) が実施した 7000 を超えるコーヒー農園の調査から、フローター (Floating fruits)、未成熟青豆 (green fruits)、立ち枯れ症状のあるコーヒー木 (trees with wilting symptoms) の割合の増加から、減産は予想されていたが、それが現実のものとなった。

6 月の生産量は減ったとはいうものの、6 月までの暦年生産量は増加した。即ち 1 月～6 月の生産量は累計で 6.5 百万袋となった。これは 2015 年 1 月～6 月の生産量、6.2 百万袋に比べると 5% の増産である。

同様に、過去 12 か月 (2015 年 7 月～2016 年 6 月) の生産量は、13% 増え、14.5 百万袋 (60 k g) 弱となった。また 2015 年 10 月～2016 年 6 月までのコーヒー収穫年度で見ると 10.7 百万袋弱の生産量となり、2014 年 10 月～2015 年 6 月の生産量 9.5 百万袋 (60 k g) に比べると 12% の増産となっている。

2016 年 6 月生産量 (袋 : 60 kg)

2016 年 6 月	1, 158, 000 (－7%)
2015 年 6 月	1, 240, 000

2016 暦年生産量 (袋 : 60 kg)

2016 年 1 月～6 月	6, 540, 000 (+ 5 %)
2015 年 1 月～6 月	6, 246, 000

過去 12 か月の生産量 (袋 : 60 kg)

2015 年 7 月～2016 年 6 月	14, 469, 000 (+13%)
2014 年 7 月～2015 年 6 月	12, 847, 000

2015/16 コーヒー収穫年度生産量（袋：60 kg）

2015 年 10 月～2016 年 6 月 10,684,000（＋12％）

2014 年 10 月～2015 年 6 月 9,548,000

コロンビアのコーヒー輸出量は減少

2016 年 6 月のコロンビアコーヒー輸出量も減少した。この月の輸出量は 932 千袋(60 kg) となったが、これは 2015 年 6 月の輸出量、1.6 百万袋に比べると 7%の減少である。

2016 暦年の 6 月までの輸出量は 3%増え 6.1 百万袋となった。また過去 12 か月（2015 年 7 月～2016 年 6 月）の輸出量は、12.9 百万袋となり前年同期間の輸出量、11.5 百万袋に比べると 12%増加した。

同様に 2015/16 コーヒー収穫年度（2015 年 10 月～2016 年 6 月）の輸出量は 9.5 百万袋となった。これは 2014/15 収穫年度の同期間の 8.9 百万袋と比較すると 7%の増加を意味する。

2016 年 6 月輸出量（袋：60 kg）

2016 年 6 月 932,000（－7％）

2015 年 6 月 1,006,000

2016 暦年輸出量（袋：60 kg）

2016 年 1 月～6 月 6,057,000（＋3％）

2015 年 1 月～6 月 5,869,000

過去 12 ヶ月輸出量（袋：60 kg）

2015 年 7 月～2016 年 6 月 12,901,000（＋12％）

2014 年 7 月～2015 年 6 月 11,521,000

2015/16 コーヒー収穫年度(袋：60 kg)

2015 年 10 月～2016 年 6 月 9,537,000（＋7％）

2014 年 10 月～2015 年 6 月 8,914,000

以上